

令和5年度 第2回 神戸市歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日 時：令和6年2月7日（水） 13:30～15:16
2. 場 所：神戸市役所1号館14階大会議室
3. 参加者：天野会長・明石委員・足立委員・伊藤委員・神谷委員・高橋委員・竹中委員・
田中委員・橋本委員・丸山委員・百瀬委員・吉田委員
WEB：土居委員・堀本委員（いずれも50音順）
4. 内 容：
検討会会長より、第2回神戸市歯科口腔保健推進検討会（1月19日）の報告

議題1 能登半島地震における口腔保健対策について

事務局：資料1-1「能登半島地震における口腔保健対策について」本市の対応状況を説明

事務局：同資料現地における保健活動の状況について説明

水不足かつノロが流行っていたが、感染対策に注意して誤嚥性肺炎予防の啓発ポスターを作成して掲示した。

珠洲市：歯科医院はないため、能登町へ受診が必要。JDAT（日本災害歯科支援チーム）が1月中旬より避難所を巡回。2月5日より石川県歯科医師会が道の駅で診療中。

輪島市：歯科医院は3カ所あり再開。JDATが避難所を回って必要な方を歯科医院へつないでいる。

委員：資料1-2「関連死と災害時肺炎の予防」について説明

会長：水がないから歯が磨けないのは大間違い。水がなくても唾液があるので歯をみがいて口の中の菌を減らすことが大事。歯みがき剤も飲み込んでも大丈夫に作られているので、どんどん歯みがきしてくださいと被災地の方に伝えた。

委員：口腔ケアが命に直結するとわかった。昨年、防災士の資格を取得し、兵庫県防災士会の活動でも、口腔ケアの必要性を伝えていきたい。

議題2 オーラルフレイル対策について

事務局より資料2「オーラルフレイル対策について」説明

委員：オーラルフレイルでは、食べやすいものを食べるというよりは、低栄養を防ぐような食べ方が必要。「健口トレーニング」モデル事業で、兵庫県栄養士会も食べることについて何かお手伝いしたい。

事務局：まだプログラムも案なので、栄養の重要さも栄養士会からの観点からお話いただけたらと思う。

会長：オーラルフレイルの認知度は広がっているのか。

委員：言葉としては認知されていると思う。市民は言葉としてわかっているが、この事業

が本当に受けてほしい方に行き届いているかは不明。

モデル事業では、歯科衛生士会から4名の出務を調整した。

栄養士会のフレイル事業についても歯科衛生士会は協力している。いろんな角度で市民に情報提供できていると思う。

議題3 小学校におけるフッ化物モデル事業について

事務局より、資料3「小学校フッ化物モデル事業の取り組み」説明

事務局：次年度5月に臨時の懇話会を開催し、5月と8月の懇話会で、フッ化物の全市展開に向けて検討していきたい。学校関係者と保護者の方の代表に臨時的に参加頂くことも検討している。

事務局：洗口と塗布のモデル事業を約2年続けてきた。洗口については教職員の負担を軽減するため外部人材を活用しているが、外部人材と子どもとの関係性もよくスムーズに実施できている。保護者へのアンケートでは、来年度以降も洗口を続けてほしいという意見も多かった。

また、先日2回目のフッ化物塗布のモデル実施があり、この度は、その学校の学校歯科医から歯と口の健康についてお話してもらった。子どもからの質問にも丁寧に対応してもらい好評であった。歯科衛生士会の歯科衛生士の方にも子どもに寄り添った対応をしていただき、子どもたちが安心して塗布を受けることができた。モデル事業での結果を踏まえ、関係機関と連携して今後のことについて考えていきたい。子どもたちが自分たちの歯や口の健康に関心を持ち、セルフケアに繋げることができればと考えている。

委員：フッ化物事業については歯科医師会では、前向きに進めることで一致している。方法論でいろんな協議があり、歯科医師会の多くの先生方は、より効果の高いフッ化物洗口を推している。

ただ、この事業は多くの方々が関わって成し遂げられる事業であり、いろんなことを考慮しながら行う必要がある。フッ化物塗布でも、まずやることが重要である。方法論についてはアドバイスや提案をしながら協議を重ねていきたい。

委員：子ども達にとって有効な方法で、教職員の負担にならない形で継続してやっていくことが大事である。

委員：(欠席のためコメント代読)

アンケート結果をみると、親への啓発が大切ではないかと思う。

子どもたちにとって、効果的なよい方法を市として選択してほしい。

委員：アンケート結果をみると、食に関する感想が多い。

学校には栄養教諭が配置されていると思うが、この授業に栄養教諭は関わっていたのか？

事務局：栄養教諭は、すべての学校に配置されている訳ではなく、このモデル事業では栄養教諭は入っていない。かむことや食べることについての学習は、食育で授業を

行っている。

議題4 口腔アセスメントシートに関するアンケートについて

事務局より、資料4「訪問歯科診療及び訪問口腔ケア必要度チェック票」利用状況アンケート調査結果について報告

アンケート結果により利用された方が少なく認知度が低いことがわかった。
今後どのような形で周知をすすめたらよいか。

委員：(欠席によりコメント代読)

各区の多職種連携の会議で、歯科医師会や歯科衛生士からPRするのが効果的なのではないか。

委員：西区歯科医師会では、医師会と薬剤師会に周知するために会員数を確認した。
今後周知をお願いしていく予定。

委員：高齢者版の「わたしの健口手帳」で介護保険課と事業展開を予定している。
連携を取るためのツールとして高齢者版の「わたしの健口手帳」で周知をしていき、その周知したものを吸い上げていく仕組みが必要なのではないか。

委員：老人福祉施設協会にシートを配布してはどうか。その協会の中に食の委員会というものがあり、訪問看護ステーションや介護施設の人たちを対象に委員会活動をしているのでそこで推進活動をなげかけてみる。

報告1 訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業について

委員より資料5-1「令和5年度 訪問歯科診療事業受付状況」、資料5-2「令和5年度 訪問口腔ケア事業実施状況」を報告

訪問歯科診療及び訪問口腔ケアの実績は、市歯科医師会が関与している実績のみ。市内の実態はもっと多い。訪問歯科診療については、歯科のない総合病院からの依頼が今後は増えていくのではないか。訪問口腔ケアでは、区のばらつきを改善していきたい。

報告2 口腔がん検診事業について

委員より、資料6-1「令和5年度 神戸市口腔がん検診事業実施状況」報告

事務局より、資料6-2「口腔がん検診事業の変更について」報告

神戸市歯科医師会の自主事業として実施してきたが、令和5年度で終了する。

6年度からは神戸市が実施主体となって、神戸市歯科医師会に委託して実施予定。

2点変更 ①自己負担金 1回500円 ②対象年齢は40歳以上

移行時期は令和6年4月1日より

市民意見の募集中 市会での決議が成立したのちに実施へ。

委員：今年度より神戸大学も口腔がん検診に携わっている。紹介状を渡した3名のうち1名の検診を実際に自分が担当したので報告する。口腔がん検診で疑いをもち、大学病院へ紹介、検査をしたら上皮内癌と診断、初期の口腔がんの発見となった。今後、手術を予定。口腔がん検診により早期発見、早期治療につながった。

今後の展望として、

1. 高齢者が多く、要介護者でベスト・サポーター・ケアに移行する方もある一方、とても健康な方もあり、高齢者の方をどのように治療していくか。
2. 対象年齢が40歳とのことだが、若年者も少なからず発症している。忙しい日常の中、治療が遅れ進行している事がある。若年者を看過してはいけない。

報告3 私立幼稚園のフッ化物洗口アンケートおよび歯科健診結果について

事務局より、資料7「私立幼稚園等における歯・口の健康づくりに関するアンケート結果について」報告

委員：う蝕有病者率5歳児の全国データは？

事務局：令和4年の歯科疾患実態調査では、17.7%。神戸圏域では、保育所、保育所型認定こども園などは、全国と比べてむし歯が多い。

委員：幼保連携型認定こども園にて令和元年から4年までが洗口実施率が下がっているのはなぜか？

事務局：コロナ禍でフッ化物洗口を一時休止している園があったため減少している。

委員：アンケート結果のフッ化物洗口の実施について、実施予定なしの理由の中に「学校歯科医に相談した結果」が多いが、歯科医師によって色々な考え方があるということか。

委員：どのように質問をしたのかによって答えも違ってくると思う。学校歯科医は、フッ化物は有効であると認識しているはず。

報告4 歯科口腔保健推進関連会議スケジュール(予定)について

事務局より、資料8「令和6年度 歯科口腔保健関連スケジュール」説明
次年度、懇話会は3回実施予定。フッ化物モデル事業は引き続き実施。

報告5 その他、情報交換等

委員：防災士会で資料1-2使用は可能。後半の資料は詳しい解説なので参考に。1月25日から29日の5日間に能登の被災地支援活動が、サンテレビの番組で紹介された。YouTubeに上がっているので「サンテレビ キャッチプラス」で検索を。

終了後のご意見

委員：議題3「小学校におけるフッ化物モデル事業について」に関して

1. むし歯予防効果について

令和 7 年度からの小学校でのフッ化物本格導入を踏まえると、実施した子どもたち（介入群）に比べて、していない子どもたち（対照群）のほうが齲蝕歯の数などが明らかに多いというデータがあれば、とても説得力があり導入が進めやすい。モデル小学校と同じ背景の小学校で同じ学年を対象に比較すると良いのではないか。

2. アンケートについて

今年度の子どもたちを対象に、再度アンケートを実施しても良い。「洗口」「塗布」をきっかけに子どもたち（保護者も含めて）が口腔ケアに関心を持ち続けてくれることが重要。

「洗口」と「塗布」の効果を比較するため、「口腔ケアに対する気持ち」や「実際のケア行動（歯磨きの回数など）」をどちらの子どもにも尋ねてみるのも大切。小学校 2～4 年生では、インタビューも良い方法だ。

3. 専門家からの講義

モデル事業では、「洗口」の子どもたちに専門家が講義や説明などはしていない。これに対し「塗布」の子どもたちは、歯科医師からフッ素の効果や口腔ケアの重要性などを聞いている。自分たちで「洗口」することと、専門家から話を聞くことでは、やはり「口腔ケアに関心を持ち続ける」という観点からは、後者のほうが効果を持つ気がする。最終的に本格実施で「洗口」になる場合も、専門家からの講義等の時間を取り入れてはどうか。